

(2) 経営分析比率の推移

ア 水道事業

項目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
施設利用率 (%)	43.6	42.4	42.0	41.4	40.2	40.1	39.6
最大稼働率 (%)	47.9	47.0	46.4	46.5	44.4	60.1	43.1
供給単価 (円)	144.96	144.60	145.65	146.18	144.65	144.67	145.26
給水原価 (円)	154.18	152.03	155.26	156.08	145.21	151.66	147.38
有収水量10,000m ³ 当たり職員数(人)	10.8	10.7	10.6	10.4	10.7	10.9	10.6

イ 水道用水供給事業

項目	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
施設利用率 (%)	59.3	59.6	59.5	57.3	77.7
最大稼働率 (%)	76.8	77.4	65.3	92.5	91.2
供給単価 (円)	76.19	76.19	76.20	80.97	88.72
給水原価 (円)	137.21	138.97	136.23	126.52	93.19
有収水量10,000m ³ 当たり職員数(人)	6.8	6.7	6.7	5.3	4.5

施設利用率 = $\frac{1日平均給水量}{1日給水能力} \times 100$: 1日当たりの平均的な施設の利用率を示す。

最大稼働率 = $\frac{1日最大給水量}{1日給水能力} \times 100$: 1年間で最も給水量が多かった日の施設の利用率(稼働率)を示す。

供給単価 = $\frac{料金収入}{有収水量}$: 需要者に供給された水(収入として調達された水。以下同じ。)の1m³当たりの単価を示す。

給水原価 = $\frac{経常費用 - (受託費用 + 材料及び不用品売却原価 + 附帯事業費 + 長期前受金戻入)}{有収水量}$: 需要者に供給された水の1m³当たりの原価を示す。

有収水量10,000m³当たり職員数 = $\frac{損益勘定所属職員数}{1日平均有収水量} \times 10,000$: 需要者に供給された水1万m³の製造に要した職員数を示す。

※会計基準の見直しに伴い、平成26年度決算より、給水原価の算出式を変更した。
平成25年度以前の算出式は以下のとおり

$$\frac{\text{経常費用} - (\text{受託費用} + \text{材料及び不用品売却原価} + \text{附帯事業費})}{\text{有収水量}}$$

